

平成 28 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2016

| | |
|----------------------------------|------------------|
| 講座名・職名 Course Title・Job Title | ヨーロッパ I 講座 助教 |
| 氏名 Name | 安田麗 |
| 専門分野 Academic Field | 音声学・ドイツ語教育 |

| | |
|---|-------------------------|
| 主たる研究テーマ Principal Research Subject | 外国語学習における音声習得プロセスに関する研究 |
| <p>外国語学習における英語の転移と干渉に関して、音声習得面の発音能力（生成面）と聞き取り能力（知覚面）について明らかにするために、①基礎的な音声データ資料の作成、②音声データの比較対照、を行った。本年度は主に、日本語を母語とし英語を第一外国語として学習した経験を持ち、ロシア語を第二外国語として学習している人を対象として、英語とロシア語の発話実験を行い音声データを収集、分析した。また昨年度と同様に、ドイツ語を第二外国語として学習している人を対象にした発話実験も引き続き行った。より多くの音声データの収集と分析を行うことで、より客観的な音声データ資料の作成を目指す。さらに、本年度はドイツ語母語話者の発話実験と音声データの分析も同様に行い、母語話者と学習者の音声データの比較も進めた。</p> <p>音響分析では主に、英語とドイツ語、ロシア語における語末閉鎖音の有声音と無声音の実現に焦点をあて調査を行っている。現在までに分析を行った音声データでは、日本語を母語とするドイツ語学習者のドイツ語の発音は、語末閉鎖音の無声化が不完全であること、一方、ロシア語学習者の発音はドイツ語学習者に比べて語末閉鎖音の無声化が実現できていることが観察された。さらに英語の発音では、ドイツ語学習者およびロシア語学習者による語末閉鎖音の有声音と無声音の差が英語母語話者に比べて明瞭ではないことが観察された。これは、ドイツ語の発音では英語の影響を受けていること、英語の発音ではドイツ語やロシア語の影響を受けていること、つまり交差言語的な干渉を示唆するものであると考える。</p> | |